

「南区まちづくり活動サポート事業」実施報告書

令和3年2月12日

団体名 月潟商工会青年部

代表者氏名 部長 木下 健一

1 提案事業名

スカイランタン打ち上げ事業

2 事業内容

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、小中学校は休校となり、月潟まつりや大道芸フェスティバルなど地域行事も中止となり、子供たちも我慢の生活を強いられました。子供たちに、コロナの1年と区切りをつけ、明るく希望をもった新年のスタートを切れるきっかけとしたいと考えイベントを企画しました。

「ランタン飛ばし」は台湾などアジア諸国で行われる人気のイベントで、1年の無病息災を祈る風習が元になったものだといわれています。

本来はランタンに火を付け飛ばすのですが、延焼の危険性があるため、風船の中にLED電球を入れ明かりを灯し、約15mの紐を付け、打ち上げ後回収することにより、ゴミになる事を防止しました。

(1) 参加者募集

コロナ禍において、月潟地域内外から不特定多数の方が来場されると感染リスクが高まる事を危惧し、参加者を月潟小学校児童・月潟中学校生徒に限定して小中学校を通じて募集しました。参加希望者の募集に合わせ、見学を希望するご家族の方の申込も受付、当日の来場者数を事前に把握しました。

また、当初計画ではランタンに使用する和紙に手描きで「想い」や「願い」を書き込み打ち上げる予定でしたが、当日の混雑密集を避けるため、事前に「想い」や「願い」を書き込む短冊を小中学生に配布し、当日参加できない児童生徒にも記入していただきました。月潟小学校では授業の一環として短冊記入に取り組んでいただいた学年もありました。

参加申込状況

	参加希望者数	見学希望者数	小計	短冊受付数
小学生	110	172	282	179
中学生	18	20	38	16
合計	128	192	320	195

(2) スカイランタンの調達

スカイランタンには7種の部材を使用します。それぞれインターネット通販等で購入することができます(1個当たり500円程度で調達可能)。しかし、新潟県内外でスカイランタンの打上げイベントを開催している「新潟スカイランタ

ンフェスティバル実行委員会」の運営会社が LED 電球を使用するスカイランタン
の意匠権を取得しており、インターネットで調達しイベントを開催した場合、意
匠権の侵害にあたる懸念がありました。

したがって、「新潟スカイランタンフェスティバル実行委員会」の運営会社か
ら調達することとしました（1個当たり1,320円）。

(3) 新型コロナウイルス感染予防対策

① 2部制に変更

参加・見学申込者が320名と多くの方がお集りになる見込みとなり、荒
天の場合は月潟小学校体育館での開催となり、密集・密接を避けられない状
況となりました。月潟小学校体育館で2mのソーシャルディスタンスを確保
するには、180名が限度となることから、第1部を小学1年生から4年生、
第2部を小学5年生から中学生とする2部制に変更しました。

② 地域活動再開支援事業

標記事業の実践事例として㈱ディモルギアのご指導の下、検温・手指消毒、
来場者名簿の作成、ソーシャルディスタンスの確保、換気（常時開放）、を行
いました。

(4) 当日の様子

① イベント名 「月空ランタンフェス2020」

～舞い上がれ大空へ 希望を乗せて～

① 開催日 令和2年12月27日（日）

② 会場 月潟小学校体育館・グラウンド

③ 参加者数

	属性	参加者	見学者	合計
第1部	月潟小学校1～4年生	66	97	163
第2部	月潟小学校5～6年生	29	61	108
	月潟中学校生徒	18		
	小計	113	158	271
	スタッフ他			36
	合計		113	158

当日はこの季節としては奇跡的に好天に恵まれ、朝から青空が広がり、ほぼ無
風の状態でスカイランタンの打上げには絶好のコンディションでした。

月潟商工会青年部8名で午前10時から月潟小学校にて会場設営作業及びス
カイランタンの制作作業及びに取り掛かりました。

グラウンドの国旗掲揚塔にはイルミネーション装飾を施し、幻想的な雰囲気
を演出しました。また出入口等の足元を照らす照明等を設置し、安全にイ
ベントを楽しんでいただける会場作りを心掛けました。

15時からボランティアスタッフ約20名も加わり、風船にヘリウムガスを

充填し、参加者を迎え入れる準備が整いました。

16時20分から参加者の受付を始め、入口では来場者名の確認、検温、手指消毒を行い、体育館では予め提出いただいた短冊をお渡しし、ご自身でスカイランタンに結び付けていただきました。体育館からグラウンドに移動し本番を迎えました。

司会をラジオパーソナリティーで月潟大道芸フェスティバル応援大使でもある斉藤瞳さんをお願いし、5秒前からカウントダウンし Lisa の「炎」を BGM に打ち上げました。

子供たちは「コロナが早く収まってほしい」や「ユーチューバーになりたい」など、願い事や将来の夢を書いた短冊を LED で明るく灯されたランタンに添えて、一斉に打ち上げました。参加できなかった児童生徒の願いを込めた短冊はスタッフにより打上げました。

スカイランタンは15m程の高さにふわふわと浮かび、国旗掲揚塔を利用して飾り付けたイルミネーションと併せ、幻想的な雰囲気に見惚れて、感動を生みました。

3 評価と課題（目的と成果、今後の取り組み等について記入してください。）

（1）目的

2020年はコロナ禍において、子供たちは臨時休校や地域行事の中止など、我慢の生活を強いられました。「スカイランタン」に未来への「希望」・「願い」を乗せ、打ち上げる事により、コロナ禍で我慢を強いられた子供たちにも、コロナの1年と区切りをつけ、明るく希望をもった新年のスタートを切れるきっかけとしたい。また地域の人々のコロナ禍で落ち込んだ気持ちを、イルミネーションの明かりで、未来を明るく照らす象徴としたい。

（2）成果

新型コロナウイルスの感染拡大防止を重点課題として事業に取り組みました。参加者を月潟小中学校の児童生徒に限定し、見学者は家族のみとし、混雑を回避するため、地域住民には広報を行うことは出来ませんでした。

2部制とし参加者を分散したことにより、150基のスカイランタンを一斉に打上げることは出来ませんでした。113名の参加者、見学者を含め約300名が集い、「想い」・「願い」を空高く打上げ、コロナ禍に惑わされた1年から新年の希望へと気持ちを切り替えることが出来たのではないかと思います。

当日の様子は新潟日報に記事が掲載され、月潟の地域行事を PR することも出来ました。住民からも参加していただく住民と一体となったイベントとはなりませんでした。地域話題を提供しコミュニティーの維持向上に繋がりました。

（3）今後の取り組み

月潟商工会青年部では次年度の開催に向け、協議をしております。一番の課題は事業費の確保であります。今回は参加費を徴収せず開催できましたが、

次年度以降は参加費を徴収することも検討しております。

参加費をいただくとすれば、今年以上に「参加したい」と思わせる魅力のあるイベントとする必要があります。

コロナウイルスの収束状況にもよりますが、月潟地域外からの参加者を募ることも検討しております。実現すれば交流人口の増加、地域間交流の促進に繋がり、月潟地域のPRに寄与することもできます。

今回のイベントで得たノウハウ・経験を次年度以降の開催に生かし、盛大に開催し、月潟地域の目玉イベントの1つに成長できるよう検討を進めてまいります。

4 実施状況写真

